

## 第2学年 外国語科（英語）学習指導案

日 時：平成24年12月12日（水）第4校時

指導者：JET 三浦 美和子

ALT Andrew Small

場 所：英語・美術 教室

### 1. 単元名 “The story of an Old Clock” New Horizon English Course Book2 Unit 6

### 2. 単元の目標

○ペア、グループワークにおいて間違いを恐れずに話す。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

○There is (are)構文、動名詞などを用いて身近なことについて正しく書く。

(外国語表現の能力)

○There is(are)構文、動名詞などの文法事項の知識を活用して、物語の内容を正しく読み取る。

(外国語理解の能力)

○There is(are)構文、動名詞を用いた文の構造について理解する。

(言語や文化についての知識・理解)

### 3. 学習の基盤（生徒観は省略）

#### 教材観

本単元は、海外旅行を計画中のブラウン先生が、宿泊先のホテルについて140年ほど前に起こった出来事を書店で見つけ紹介するという場面を扱っている。文法事項としては、Starting Out, Dialog で「There is(are)～」の肯定文、疑問文と応答文、Reading for Communication では動名詞を用いた文が取り上げられている。また、Unit 5 で初出した接続詞「when, because」が再度取り上げられており、既習の文法事項を活用しながら定着を図る上でも、大変有効な単元である。

内容としては、実際にイギリスのジョージホテルで起こった出来事について取り上げられており、日本でも慣れ親しまれている「Grandfather's Clock」の誕生の経緯について説明するものである。歌詞と曲はよく知っていても、その由来について知る生徒達はほとんどいないと考えられるため、興味をもって読み進めていくのに適切な内容であると言える。また、そうした背景を知るとは異文化を理解する上でも適していると考えられる。

#### 指導観

本単元の学習を通して「There is (are)～」の構文や動名詞を用いた文の用法について理解し、運用できる力を身に付けさせたい。～ing の形は現在進行形の学習で既出であるが、その形と混同させないように動名詞の意味をしっかりと押さえてから to 不定詞の名詞的用法とも関連づけて指導していく必要があると考える。

指導の流れとしては、英語の基礎的事項が定着していない生徒たちもより自信をもって活動に取り組み、英語を使って表現する機会を増やせるよう、ペア学習やグループワーク等を多く設定し、互いに学び合いながら学習活動ができるよう配慮し

ていきたい。また、よくある文法的な間違いは、活動の終了後に全体で確認する等して、新しい学習事項が正確に身につくよう指導していきたい。加えてデジタル教材を使って視覚に訴えたり、「古時計」のCDを流したりすることにより生徒の知的好奇心を喚起し、英語に苦手意識をもち始めた生徒たちにも「Grandfather's Clock」の誕生の経緯について興味・関心をもって読み進めていくことができるような授業を目指したい。

#### 4. 単元の評価規準

ア) コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ) 外国語表現の能力	ウ) 外国語理解の能力	エ) 言語や文化についての知識・理解
① ペア学習やグループワークにおいて間違ふことを恐れずに話している。 (話すこと・言語活動への取組)	① <b>There is(are)</b> 構文や動名詞などを用いて身近なことについて正しく書くことができる。 (書くこと・正確さ)	① <b>There is(are)</b> 構文、動名詞などの文法事項の知識を活用して、物語の内容を正しく読み取ることができる。 (読むこと・正確さ)	① <b>There is(are)</b> を用いた文の構造について理解している。 ② 動名詞を用いた文の構造について理解している。 (書くこと・言語についての知識)

#### 5. 単元の指導計画と評価計画

時	◎パート名○目標・主な学習活動	評価規準	主な評価方法
1	◎ <b>Starting Out</b> ○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・本単元の場面設定やブラウン先生が何についての情報を探しているのかを知る。 ○ <b>There is (are)</b> を用いた文(肯定文)の構造について理解する。 ・本文を通して <b>There is(are)</b> を用いた肯定文の構造を知る。	エ) の①	ペーパーテスト (後日)
2	◎ <b>Dialog</b> ○ <b>There is(are)</b> を用いた文(否定文、疑問文と応答文)の構造について理解する。 ・会話文を通して、 <b>There is (are)</b> を用いた否定文、疑問文と応答文の構造を知り、その使い方について理解する。	エ) の①	ペーパーテスト (後日)

3	<p>◎Dialog</p> <p>○There is(are)構文を用いて間違うことを恐れず話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住んでいる町の様子について、写真を見ながら相手に紹介する。</li> </ul> <p>○There is (are)構文を用いて、正しく書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が将来住んでみたいドリームタウンについて英作し発表する。</li> </ul>	<p>ア) の①</p> <p>イ) の①</p>	<p>活動の観察</p> <p>英作ワークシート</p>
4	<p>◎Reading for Communication</p> <p>○動名詞を用いた文の構造について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を通して動名詞を用いた文の構造について知り、その使い方について理解する。</li> </ul>	<p>エ) の②</p>	<p>ペーパーテスト (後日)</p>
5 本 時	<p>◎Reading for Communication</p> <p>○「Grandfather's Clock」誕生の経緯について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の内容についての T or F に取り組む。</li> <li>・Horse Race (単語毎に切り離された英文を正しい順番になおし、その英文を日本語に訳す活動) に取り組む。</li> </ul>	<p>ウ) の①</p>	<p>ワークシート</p>
6 7	<p>◎Reading for Communication</p> <p>○登場人物の心情等を考えながら物語を読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を考えながら物語を音読する。</li> <li>・物語の内容についての質問に答える。</li> </ul>	<p>ウ) の①</p>	<p>ワークシート</p>
後 日	<p>◎Unit6 についてのペーパーテスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・There is(are)構文、動名詞を用いて場面に合う英文を書く問題に取り組む。</li> </ul>	<p>イ) の①</p> <p>エ) の①、②</p>	<p>ペーパーテスト</p>

## 6. 本時の学習

### (1) 本時の目標

○There is(are)構文、動名詞などの文法事項の知識を活用して、物語の内容を正しく読み取る。

### (2) 本時の展開

・学習活動	・教師の支援	・評価規準 (評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語でのあいさつ</li> <li>・ALTの質問に答えながら前時の学習を振り返る。</li> <li>・ペアで会話練習をする。</li> <li>・古時計の歌を聞く。</li> <li>・新出単語の読みの練習をする。</li> <li>・古時計が作られた由来を考えながら物語の内容を聞く。</li> <li>・本文の内容についてTかFかで答える。</li> <li>・本文の詳細を知るための学習活動 Horse Race (単語毎に切り離された英文を正しい順番になおし、その英文を日本語に訳す活動)に取り組む。</li> <li>・本時の活動を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習の雰囲気づくりとウォームアップができるようにする。</li> <li>・カード等を用いて質問にスムーズに答えられるように支援する。</li> <li>・生徒の会話練習を個別に支援する。</li> <li>・古時計の写真を見せるなどして、イメージが広がるように配慮する。</li> <li>・生徒の理解度に合わせながら場合によっては繰り返し練習させる。</li> <li>・デジタル教材を使って視覚に訴える。</li> <li>・必要に応じてデジタルボードに着目すべき文章を拡大し提示する。</li> <li>・活動が滞っている班は個別に支援する。</li> <li>・学習活動中に質問が多かった点等について説明を加える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準 (評価方法)</li> <li>・ There is(are)構文、動名詞などの文法事項の知識を活用して、物語の内容を読み取ることができる。 (ワークシート)</li> </ul>

(3) 本時の具体的な評価と支援

評価の観点	十分満足と判断される生徒の具体例	おおむね満足と判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
外国語理解の能力	<b>There is(are)</b> 構文、動名詞などの文法事項の知識を活用して、物語の内容を正しく読み取ることができる。	<b>There is(are)</b> 構文、動名詞などの文法事項の知識を活用することにおいて課題はあるものの、物語の内容をおおむね正しく読み取ることができる。	正しい文を組み立てるヒントを与えたり、単語の意味を教えたりする等、個別に支援する。